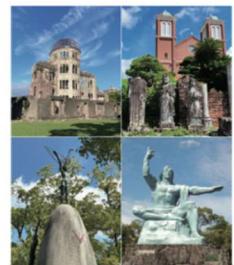


被爆80年広島・長崎

今、伝えたい被爆の実相

和英併記



被爆 80 年の節目に、広島と長崎の声を次世代へ。

被爆者の証言を中心に「被爆の実相」を伝える和英併記の記録集。

未来へと平和をつなぐために、国内外に届けたい一冊。

監修 = 上田紘治 英語翻訳 = 荘中孝之／ポール・スコット

A5 判、ソフトカバー、口絵カラー、本文 180 ページ

<はじめにより抜粋>

目 次

はじめに (上田紘治)	1
[被爆証言]	
原子爆弾の開発から投下へ／広島への原爆投下／長崎への原爆投下	6
岩佐幹三 原爆被害について考える ——核時代に私たち人類はどう向き合うか	13
大山照子 死んでいた方がよかったか	20
五藤光子 生きながら焼き殺された子どもたち	22
薦田一登 この世の地獄 —— 狂乱の8月6日	26
齋藤政一 放射能風評被害に泣いた私の原爆体験と岩手県での生活 ——被爆者であることを隠したい	31
沢田昭二 私の原爆体験から	36
豊崎トク子 七十路去るとも忘れまじ、あの日あの時	39
畠谷由江 私は7歳のとき広島で被爆	46
伊藤雅浩 10歳の体験 —— 「あの日」見たこと	48
上野知子 戦争体験	54
中山高光 2010年NPT再検討会議に参加して	57
深堀美紀 父・深堀龍三が13歳のころ	59
肥田舜太郎 医師が見た被爆者の生と死 ——原爆被害、隠蔽と放置12年間	65

被爆者たちは、言葉では言い表せない地獄のような体験をしました。それでも私たちの願いは一貫して、「再び、被爆者をつくらない」「核兵器のない平和な世界の実現」です。決して「報復」を叫んだことはありません。世界の指導者たちには、この被爆者の思いを真摯に受け止めてほしいと願います。被爆 80 年。被爆者の証言が、少しでも平和な社会の実現に役立つのであれば、これほど嬉しいことはありません。

監修者 上田紘治：

東京都原爆被害者団体協議会・元事務局次長

東京都八王子市原爆被害者の会・元事務局長

1942 年生まれ (本籍は広島市元柳町)。爆心地より 約 10km 離れて、母、妹とともに入市被爆。1982、2003、2005、2010 年に渡米し、各地で被爆の実相を語る。

『被爆 80 年 広島・長崎 今、伝えたい被爆の実相 (和英併記)』

監修 = 上田紘治 英語翻訳 = 荘中孝之／ポール・スコット

文彩堂出版 定価：2,200 円 (税込) ISBN : 978-4-86802-247-3

こちらの QR コードから、1 冊 1,500 円でお買い求めいただけます
(送料はご負担ください)

